

夕日が演出する極楽浄土の世界

～異なる2匹の龍の世界～ 小平山教光院正福寺

寺院に描かれる天井画は、仏教不殺生の教えにより、通常、動物は描かれませんが、時の住職「典翁大和尚」のすべての人を救いたいという強い願いが込められています。描かれた霊獣や動物から、現代へ通じるメッセージを読み解きます。

龍2態が意味する異なる世界を考えてみましょう。

○公開期間

令和6年1月6・13・20・27日の4日間

○時間

受付：15時00分～15時10分 解説：15時10分～16時30分

※申込は不要ですので、直接現地へお越しください

○拝観料

文化財保護協力金500円をお願いしています。

○駐車場

①正福寺駐車場（みどり市大間々町小平768）

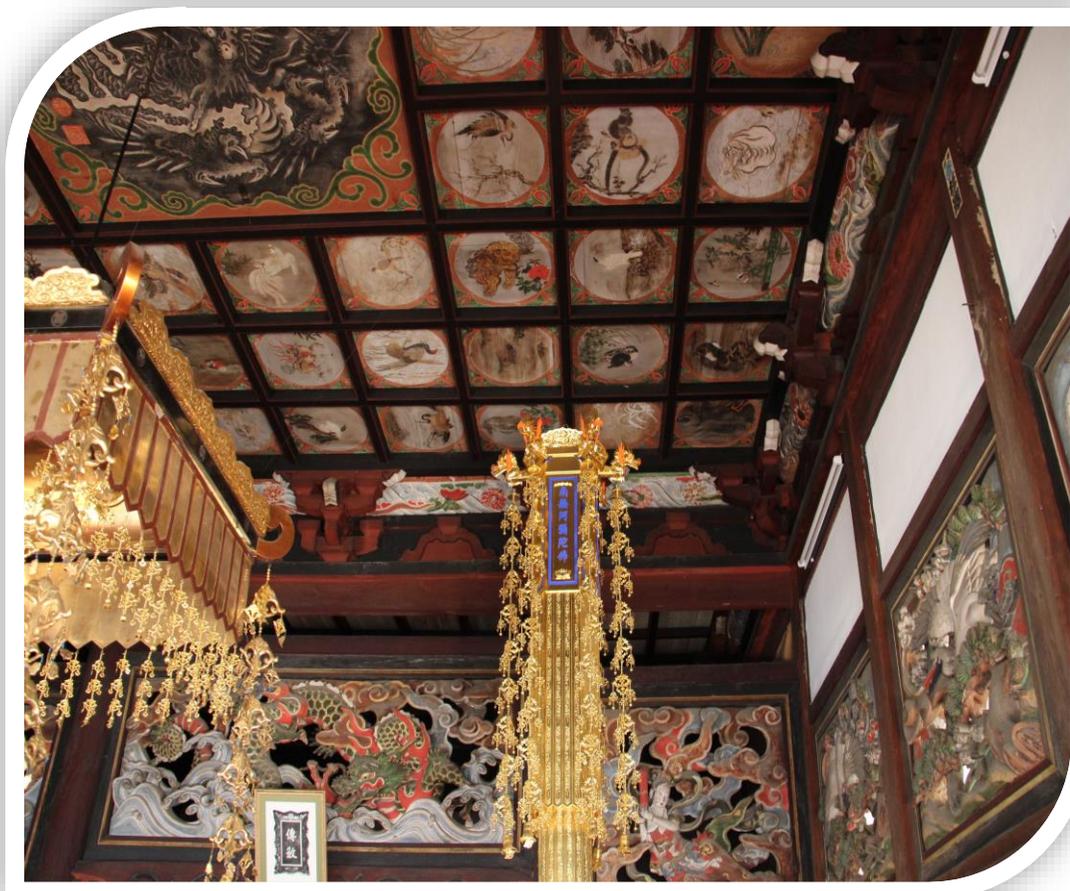
②小平の里 親水公園駐車場（みどり市大間々町小平784）



Googleマップ

○その他

- ・文化財保護のためライトアップはいたしません。
- ・堂内の撮影は一切禁止です。
- ・晴天時のみ公開します。
- ・降雪等により道路事情が悪い場合は中止となる場合があります。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大状況により、予告なく中止となる場合があります。



問い合わせ先

- みどり市観光ガイドの会事務局：0277-46-7289
(みどり市観光協会内)
- 小平の里：0277-73-2006

正福寺の天井画と欄間彫刻

〈東照宮由来の建築装飾の技法が花開く〉

小平山教光院正福寺 - 建立：明和7年(1770年) -
内部装飾は、創建当時のままの姿で
群馬県近世社寺総合調査報告書 寺院編 R4.3月刊に本調査結果あり

正福寺の天井画の特徴は、動物がモチーフの珍しい構成

(仏教は殺生を嫌うので、一般には植物や吉祥の霊獣が描かれる)

極めて珍しい由緒落款 (角印)
「水田に日あり水あり」



雨乞・干乞い掛け軸 「衆生済度皆求成仏道」



法華一乗の教え = この世の極楽浄土 ⇒ 天井画
(水田に種をまくと芽が出るように、仏種が育つ意)

念仏による布教 「念仏衆生摂取不捨」
(雨乞いの法により降雨 = 霊験) ⇒ 秘仏 (阿弥陀如来)



法華曼荼羅思想による
阿弥陀如来、観音菩薩、地蔵菩薩の3尊仏



弥勒菩薩出現までの衆生救済

天井画 この世の極楽浄土

- ・多種多様な動物が共存共栄する世界
- ・個(1)、夫婦・親子(2)、家族(3)
※数が意味するもの
- ・霊獣：麒麟、猿→平和の象徴
- ・解豕(カヰ) = 極楽浄土の裁判官

欄間彫刻

○天界を賛美する阿吽一對の動物

- ・鶴、松竹梅…長寿
- ・鳳凰、桐……有徳の天子
- ・金鶏、芙蓉…夜明けを告げる (新たな世界のはじまり)
- ・孔雀、松竹…孔雀明王の象徴。「三毒」(貪・瞋・痴)の浄化

○宝珠を持たない竜

この先に「往く浄土(死後の浄土)」があることを示唆



霊獣：麒麟

雉(雌雄)(2)

肘長猿の親子(2)

白鷹

竹に雀(3)

宝珠を持たない龍

笙を持つ天女

鶴に松竹梅(2枚1組)